

集落展開及び精神文化に関する6つのステージ

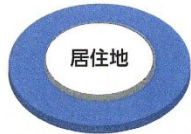
紀元前13,000年 紀元前7,000年 紀元前5,000年 紀元前3,000年 紀元前2,000年 紀元前1,500年 紀元前400年

ステージⅠ 定住の開始

Ia: 居住地の形成

(紀元前13,000年頃～紀元前7,000年頃)

- 土器の使用を開始



Ib: 集落の成立

(紀元前7,000年頃～紀元前5,000年頃)

- 居住域と墓域の分離
- 独特な墓制の成立



ステージⅡ 定住の発展

IIa: 集落施設の多様化

(紀元前5,000年頃～紀元前3,000年頃)

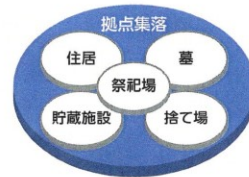
- 集落の施設の充実
- 祭祀場的な捨て場が形成



IIb: 拠点集落の出現

(紀元前3,000年頃～紀元前2,000年頃)

- 集落の祭祀場が多様になる
- 祭祀場が顕著となる

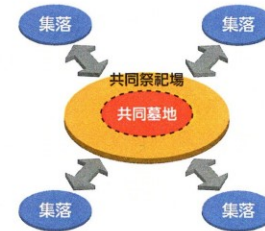


ステージⅢ 定住の成熟

IIIa: 共同の祭祀場と墓地の進出

(紀元前2,000年頃～紀元前1,500年頃)

- 集落は小規模となり分散
- 集落外に共同の祭祀場と墓地を構築、維持・管理



IIIb: 祭祀場と墓地の分離

(紀元前1,500年頃～紀元前400年頃)

- 祭祀・儀礼が充実し、共同墓地・共同祭祀場が顕著となる



集落の展開

構成資産及び立地

1 大平山元遺跡

2 垣ノ島遺跡

3 北黄金貝塚

4 田小屋野貝塚

5 ニツ森貝塚

6 三内丸山遺跡

7 大船遺跡

8 御所野遺跡

9 入江貝塚

10 小牧野遺跡

11 伊勢堂岱遺跡

12 大湯環状列石

13 キウス周堤墓群

14 大森勝山遺跡

15 高砂貝塚

16 亀ヶ岡石器時代遺跡

17 是川石器時代遺跡

構成資産名の背景色

- | | |
|------------|------------|
| 内陸の河川付近に立地 | 丘陵に立地 |
| 外洋の沿岸に立地 | 山岳の河川付近に立地 |
| 内海の沿岸に立地 | 山岳に立地 |
| 湖沼の沿岸に立地 | |

気候

氷期の終焉と温暖化の開始

温暖化と海進

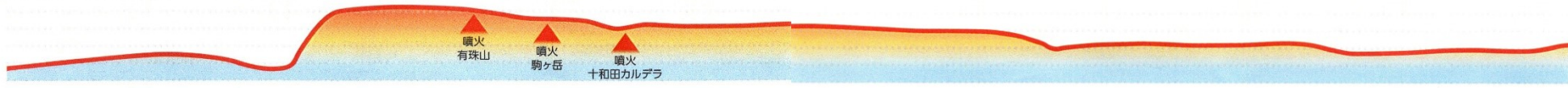
火山噴火後に気候が安定

安定した温暖な気候

気候の一時的な寒冷化

冷涼な気候

+3℃
現在
-5℃



紀元前13,000年頃に地球全体の気候が暖くなり、自然環境が大きく変わりました。その頃、土器の使用が始まりました。土器の登場によって食料の貯蔵や煮炊きが可能となり、食料の種類も増え、食生活が豊かになりました。土器は重量があり壊れやすく、頻繁な持ち運びに適さないため、定住の開始を示す指標の一つと考えられています。

紀元前7,000年頃には落葉広葉樹の森林が平野部や海岸線まで広がりました。人々は水辺近くの丘に集落をつくり、竪穴建物に暮らすようになりました。やがて、竪穴建物からなる居住域と、死者を埋葬する墓域が形成され、日常と非日常の空間が分けられました。墓域の出現は、集落に居住する人々の結びつきを強め、祖先崇拜にもつながったと考えられます。

紀元前5,000年以降も温暖な気候が続きました。海や湖沼、川の近くの小高い丘に集落が形成され、竪穴建物や墓のほか、食料を保存・保管する貯蔵穴、食べた貝殻や動物の骨などを捨てた貝塚や捨て場もつくられました。貝塚からは人骨や意図的に破壊した土器・石器等もみられ、単なるゴミ捨て場ではなく、祭祀的な空間として機能したと考えられています。

紀元前3,000年頃になると、規模が大きく、長期間継続し、地域の拠点となる集落が登場しました。集落には、多様な施設が配置され、祭祀・儀礼の空間も発達しました。中でも、盛土には土砂とともに、大量の土器や石器が廃棄され、土偶などのまつりの道具も多く出土することから、世代を超えて祭祀・儀礼が行われていたと考えられています。

紀元前2,000年頃に気候が冷涼化すると、集落の規模は小さくなり、人々は分散して居住するようになりました。それぞれの集落の結びつきを強めるため、環状列石のような大規模な共同祭祀場・共同墓地が構築されました。環状列石の構築には多くの時間と労力が必要とするため、複数の集落の人々が協力して構築し、維持・管理したと考えられています。

紀元前1,500年頃以降も冷涼な気候が続きました。小規模な集落が継続し、集落の結びつきを深めるため、共同の祭祀・儀礼の拠点となる祭祀場や墓地が構築されました。中でも葬送儀礼が発達し、共同墓地は祭祀場とは別な場所につくられました。土手で囲まれた周堤墓、審美性豊かな土偶や多彩な副葬品が出土する墓地など、祭祀・儀礼の充実を伝えます。